

箱根湿生花園の紹介(仙石原湿原に触れる)

仙石原にある箱根湿生花園は、湿地植物を中心とした珍しい屋外施設です。この辺りは、かつては水田で、近くの早川から水を引いていました。しかし、常に気候が湿潤であったことから、生産量が特に高くなったことはありませんでした。自治体はこの地域をより有効に活用できると判断し、仙石原の特徴的な植物を保護すると同時に、箱根の中でも比較的のどかな場所であるこの地域に観光客を引きつけるため、1976年に花園を設立しました。今では1,000種以上の自生植物が園内で生育しています。園には、ススキ（ミダレグサ）草原もあり、仙石原湿原を自然な状態に復元しています。昔は湖底だったこの湿原は、木や侵入植物が湿原植物の数を圧倒し、湿原植物の生育を止めてしまわないように、定期的な手入れが必要です。園外の植物の保護活動は数十年前に取りやめになっていましたが、2000年に再開しました。それ以来、毎年、湿原全体の健全な環境を維持するため、草刈りを行い、木や侵入植物を焼き払っています。アヤメやナデシコ、ミズチドリなどの在来植物が戻ってきたことでも証明されているように、園の生物多様性は堅実に育まれています。